

ワクワク！ドキドキ！ 仲間と育ち合う学び

富士見市立ふじみ野小学校 中村 潤

はじめに

「子どもたちにとって学校は楽しく安心できる居場所となっているだろうか。」自分自身に問いかけながら日々実践している（ふと慌ただしさの中で忘れてしまいうさになり、反省の連続……）。原稿を書いてる今、頭に浮かぶのがサザンオールスターズ「ピースとハイライト」の歌詞。

歴史を照らし合わせて

助け合えたらいいじゃない

硬い拳を振り上げて

心開かない

先日行われた米朝首脳会談はメディアでも大きく取り上げられた。平和な世界を築くために必要なのは、武力や圧力ではなく対話であることを示した。教室で仲間と学び、学級を創造することは平和で民主的な社会をつくるための一歩ではないだろうか。目の前の子どもたちと話し合って、「できることを」と思いながら取り組んできた一端を述べたい。

ドラえもんのか？ボックス

昨年度、一年生を担任したときのことである。ひらがなを学習していると、「もつ

とやりたい」「早くやりたい」という子が多い。一方で、書くことに取りかかれず苦戦している子もいた。楽しく学習できないかと考え、ドラえもんの絵を貼って作った「？ボックス」を手に教室へと向かった。

「この箱の中にはある物が入っています。質問がある人は手をあげてください」

「それは食べられますか」「何色ですか」「丸いですか。」「どのくらい大きいですか」

「えだまめ……？」「そらまめ」

「すごいね！正解。実はね、そらまめの絵本があるので読みます」と言って、『そらまめくんのベッド』の読み聞かせをした。

「今日はそらまめの『そ』を練習します」といつものプリントの練習を始めたときである。I君が「終わったよ！」と言って手を挙げている。今までは「どこまでならできる？」と聞かれてからやり始めるI君。自らの力でやり遂げた瞬間だった。

ドラえもんのか？ボックスが出てくると、子どもたちは「やったあ！」「ひらがなやりたい」という声飛び交った。「ひらがなをやるよ！」と言うと、「せーの。ドラえもん」とみんなで呼ぶのが恒例となった。

運動会が終わった日。「今日はみんなよくがんばったね。最後にみんなで何かやりたいことはある？」と聞くと、子どもたち

は「ひらがなやりたい！」と言うほどだった。

「運動会だから今日は勉強しないんだ。また来週ね。運動会もこれで終わりだから何かやりたいことはないかなあ？つてことなんだけど」

「応援、やりたい！」と言うので、6、7人がずらりと前に出てきて、応援団の役をした。みんな「優勝！優勝！みどり！」と頑張りを称えた。

くりあがりのあるたじざん

教科書では「 $9+4=13$ 」になる式の問題から導入し、 $9+3$ 、 $8+3$ 、 $8+5$ 、 $7+4$ のような順で計算の仕方を考えていく。しかし、「あといくつで10になるか」と10の補数を見つけることは、子どもにとっては難しい。そこで、5のまとまり（5と5で10のような）で考えられるようにした（5-2進法）。また、教科書はブロックを操作して計算の仕方を考える問題が多い。十進位取りがはつきりとしたタイルも用いながら学習を進めることにした。

昨年度、一年生を担任したときのことである。ひらがなを学習していると、「もつ

問題を黒板に書いてから「じゃん！」と卵パックを取り出すと、「じゅん先生！本物？」「うわあー！」と口々に言った。

「あのね！これはみんなが賢くなるための魔法が詰まったたまごなんだよ」と言い、魔法の卵を問題の個数分黒板に貼りつけた。

「はじめにたまごを何個持っていた？」「8こ！」

「あとから何個もらったのかな？」「6こ！」問題の場面をみんなで確かめて、ノートに式を書かせた。「 $8+6=14$ 」になるということと全員の考えが一致した。

「 $8+6=14$ ってみんなは頭の中でどうやって計算するのかな？ノートにやり方を

くがんばったね。最後にみんなで何かやりたいことはある？」と聞くと、子どもたち

書いてみてね。絵でも言葉でもいいよ」と言い、子どもたちはノートに考えを書き始めた。

「1個ずつ並べて数える」とS君。

「S君と同じ。あとは計算すればわかる」とH君。

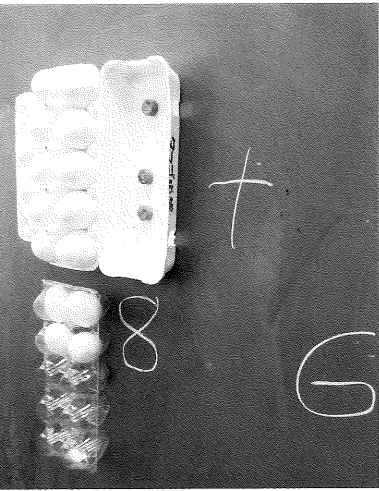
「そうなんだ。頭の中で1、2、3……って数えるんだね。他のやり方を考えた人はいる？」

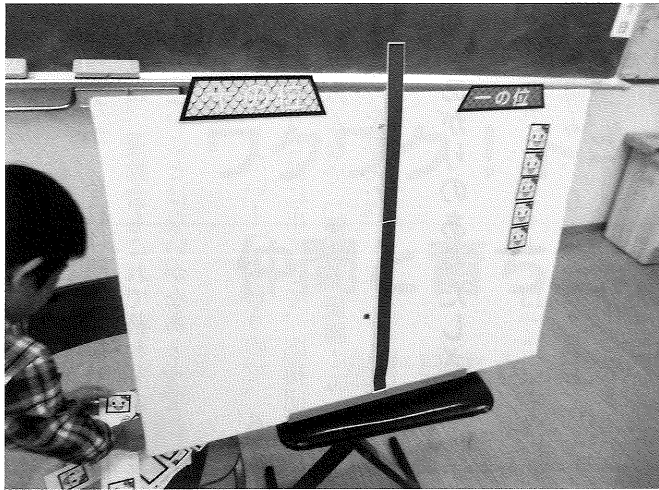
HちゃんとSちゃんが手を挙げた。8個入った卵パックと6個入った卵パックを並べて、その間に「+」、6個入った卵パックの隣に「=14」と書いた。

「卵が8個あつて、6個あとから足すからあわせて14個」とHちゃんが言った。

M君が手を挙げて説明し始めた。6個入った卵パックから2個取り出して、「まず、10個でいっぱいにする」と8個入った卵パックに移した。「残ったのは4個で、10と4で答えは14個」「同じです」と何人が同意した。

Mちゃんは、6個入った卵パックから2個取って、8個入った卵パックに入れた。そして、「10と4で14個になった」と言って、10と4を縦に並べた。





に置いた。でも、似ているかも」と答えた。
Hちゃんの意見に3人、MちゃんとM君の意見に25人ということで、1時間が終わった。

次の時間に、両方に5がある「8+7」の問題を出した。今度はタイトルを使って考えた。

「8はどうする?」「ごうくん(5)といちこちゃん(1)が3人」「7は?」「ごうくんといちこちゃんが2人」

「ごうくんといちこちゃん2人が入れてって」「ダメよ!1の部屋には、いちこちゃん9までしか入れない」

「えっ!じゃあどうする?」

この時、「ごうくんごうくんをあわせて10になった」とI君が言った。

「ミスターテン(10)に変身するよ。せーの。あんどら、いんどら、うんどら。10と5で15。5が3つだね」M君がみんなに語りかけるように言った。

Kちゃんは自信なさそうな表情であったが、「8+6=14で、それより1大きいから」と言った。

私は「8って5と3にわけの?」と子どもたちに聞いた。Aちゃんが「8から5を取って3でしょ。7から5を取ったら2になる」と答えた。

S君が「10にまとめると簡単だってことだよ」と言ったので、「他の人はどう思う?」と聞いた。「うん。ミスターテンにするとわかりやすいよ」という結論になった。

その後、2人が8と7を作って片手の5と5を合わせた10をパチンとする方法を教えると、「すごい」「簡単!」と言って、楽しみながら全員でやっていた。くりあがりのたし算の式では、補助数字を付けて10がきたら数字に○をする書き方をクラスで決めた。

学びでの討論が学級文化を創造する

学級での発言はとても活発になり、子どもたちは様々な活動を提案し、みんなを取り組んだ。「公園に出かける日に雨が降らないでほしい」とSちゃんとKちゃんの提案でてる坊主を作った。2学期には雪合戦をしようとした。話し合いの中で、「雪が降らなかつたらどうするの?」という意見が出て、Hちゃんが新聞合戦を提案し、全員が丸めた新聞紙をぶつけ合って楽しんだ。また、「教室をきれいにしたい」という思いからKちゃんとAちゃんが「整理整頓クラブ」を作り、「ダンスクラブ」「古いクラブ」「サッカークラブ」「掃除クラブ」へと学級内クラブが広がった。学級では、一人ひとりの意見が大事にされ、時に共感が生まれた。そんな子どもたちの日々の姿を学級通信に載せると、親たちから温かな言葉をたくさんもらった。

学校のみならず、様々な生活や現実を背負いながらも子どもたちは懸命に今を生きている。まずは「自分が楽しいと思えること」を実践している(「ごめんね」と言うことも多いが…)。「明日は教室でどんな楽しいことが起こるかな」と思いながら教室へ向かおう。